

UNITYの

物理エンジンの機能

高橋 誠史

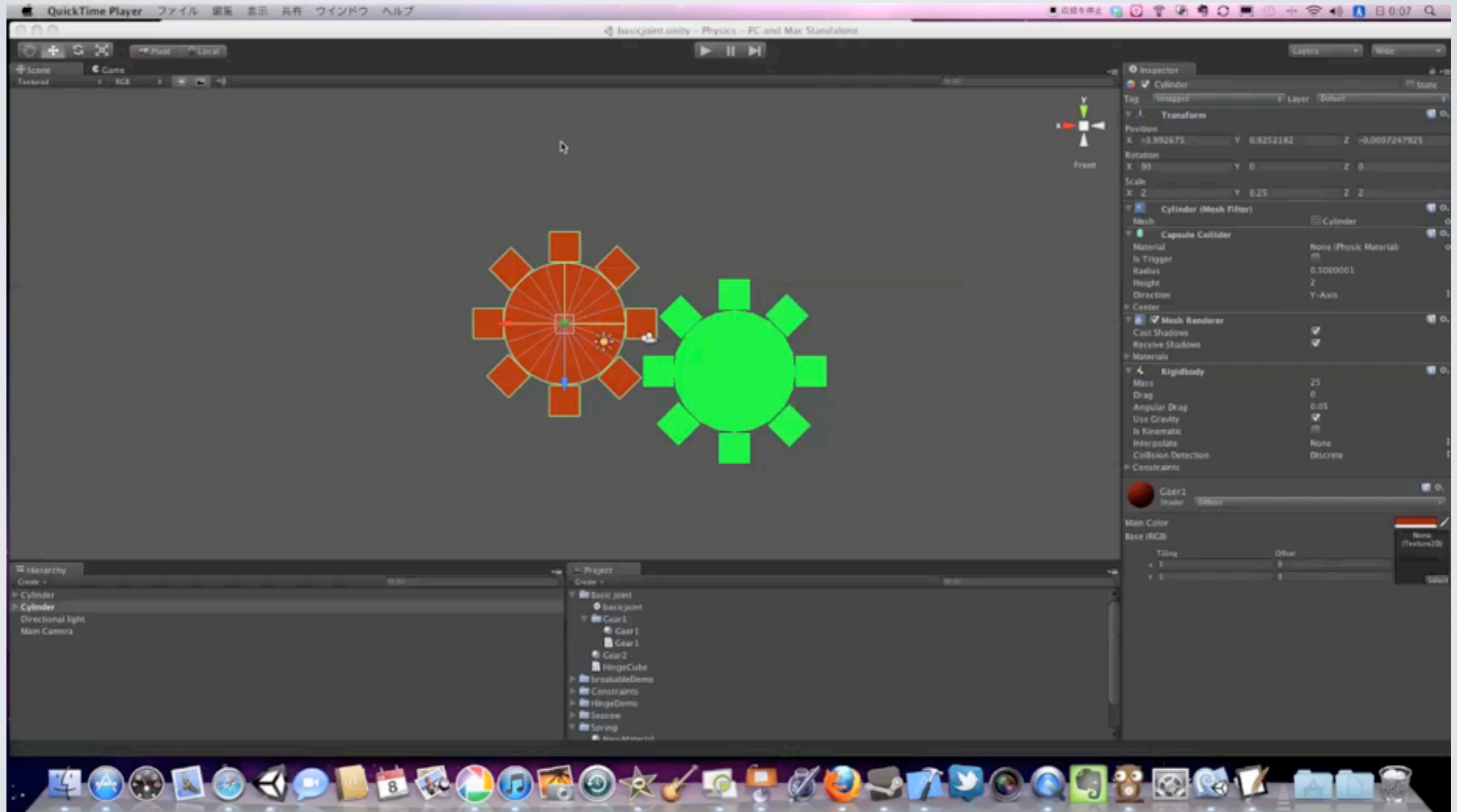
# 今回の話題

- Unityに乗ってるPhysX物理エンジンの機能を色々知る
- 使い方を覚えればメカニカルな仕掛けをゲームにとりいれられる！！
- せっかくなので物理エンジンで使われる用語を覚えていこう
- 物理シミュレーションの計算とか難しいので今回は扱いません。
- なので、うまいことUnityでできることを知って、美味しく使いましょう

# こんなあなたにオススメ

- ゲームデザイナー
  - これを覚えれば、ゲームやレベルデザインに簡単にメカニカルな物理ベースの仕掛けが取り入れられる
  - 自分で物理エンジンの機能を体験することでゲームデザインの幅を広げられる
- アーティスト
  - Unityの操作感はDCCに近いのでUnityで覚えた物理エンジン機能はMayaでも生かせる→Maya DynamicsやPhysXプラグインやAPEXなどに生かす
  - カットシーンのアニメーションなどに物理エンジンを取り入れられれば手で制御しなくていい
  - エフェクトや演出の道具として物理エンジンを取り入れる練習になる
- プログラマ
  - 物理エンジンの機能を手軽に試せるので実験に良い
  - 物理エンジンを自分のゲームに組み込む際のヒントになる
  - ツールから慣れて物理エンジンSDKのコードに入る

# こんなことができます



# UNITYの物理エンジン

- 物理エンジン自体はNVIDIA PhysXが入ってる
  - 余談...Unreal EngineもPhysXなので用語などに共通なので覚えておいて損はないかも
- Unityでどんな機能が使えるか？どうやってやるか？

# 今回の話題

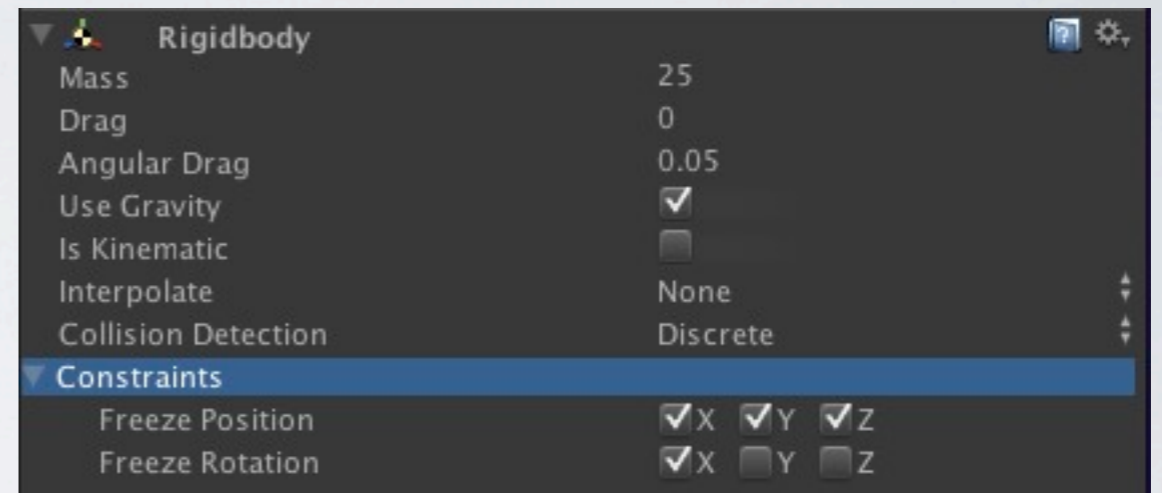
- 剛体(Rigid body)
- コンストレイン(Constraints)
- ジョイント(Joint)
  - Breakable joint(破壊可能なジョイント)
- Constant force
- スクリプトによる制御

# 剛体(RIGIDBODY)

- ようは、変形しない物体
- 物理シミュレーションの対象となる物体

# RIGIDBODYのパラメータ

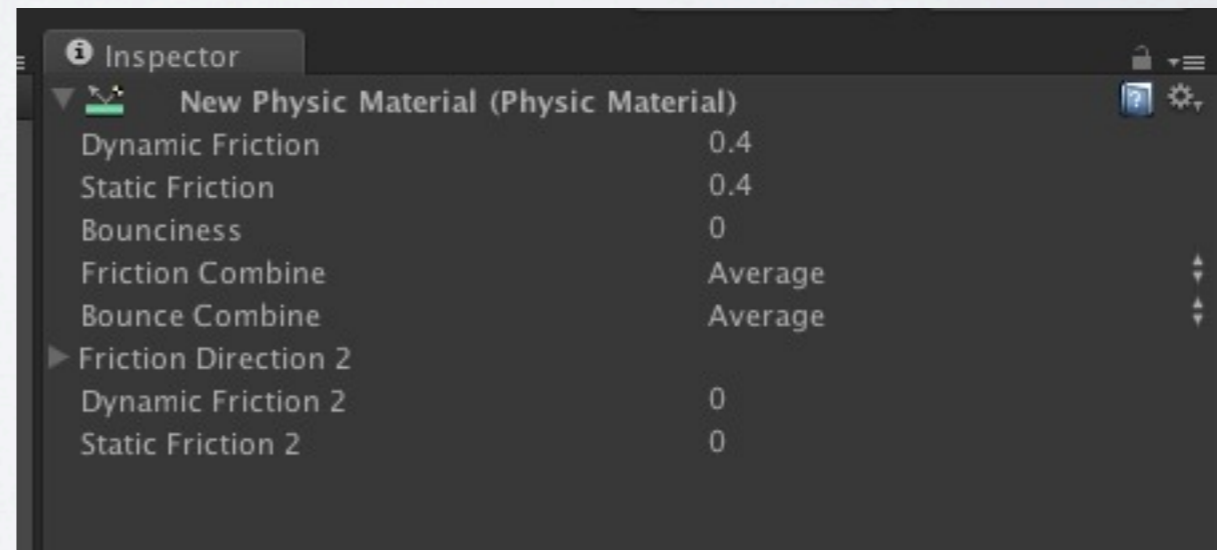
- Mass...質量
- Drag...リニアダンピング係数
- Angular Drag...角ダンピング係数
- Use Gravity...重力の影響の有無
- Is Kinematic...これがtrueだと物理シミュレーションがOFFになる
- Interpolate...シミュレーションのフレーム補間の有無(固定フレーム時)
- Collision Detection...シミュレーションのフレームの固定の有無など
- Constraints...拘束 (後述)



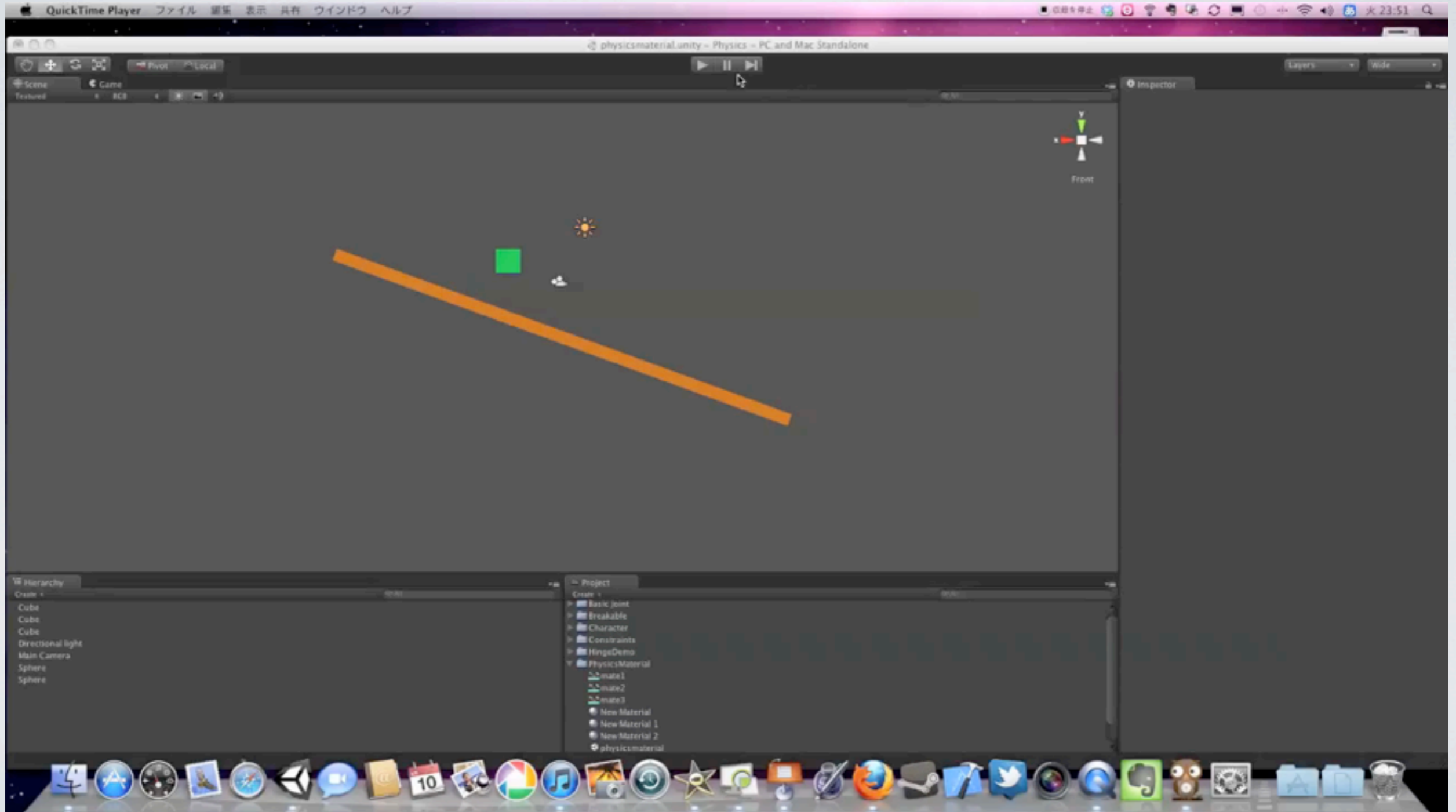


# 物理マテリアル

- 摩擦とか反発係数とか物理的な材質的なパラメータ
  - Friction...摩擦(Dynamicが動摩擦、Staticは静摩擦)
  - Bounciness...反発



# マテリアルの違い



# CONSTRAINTS

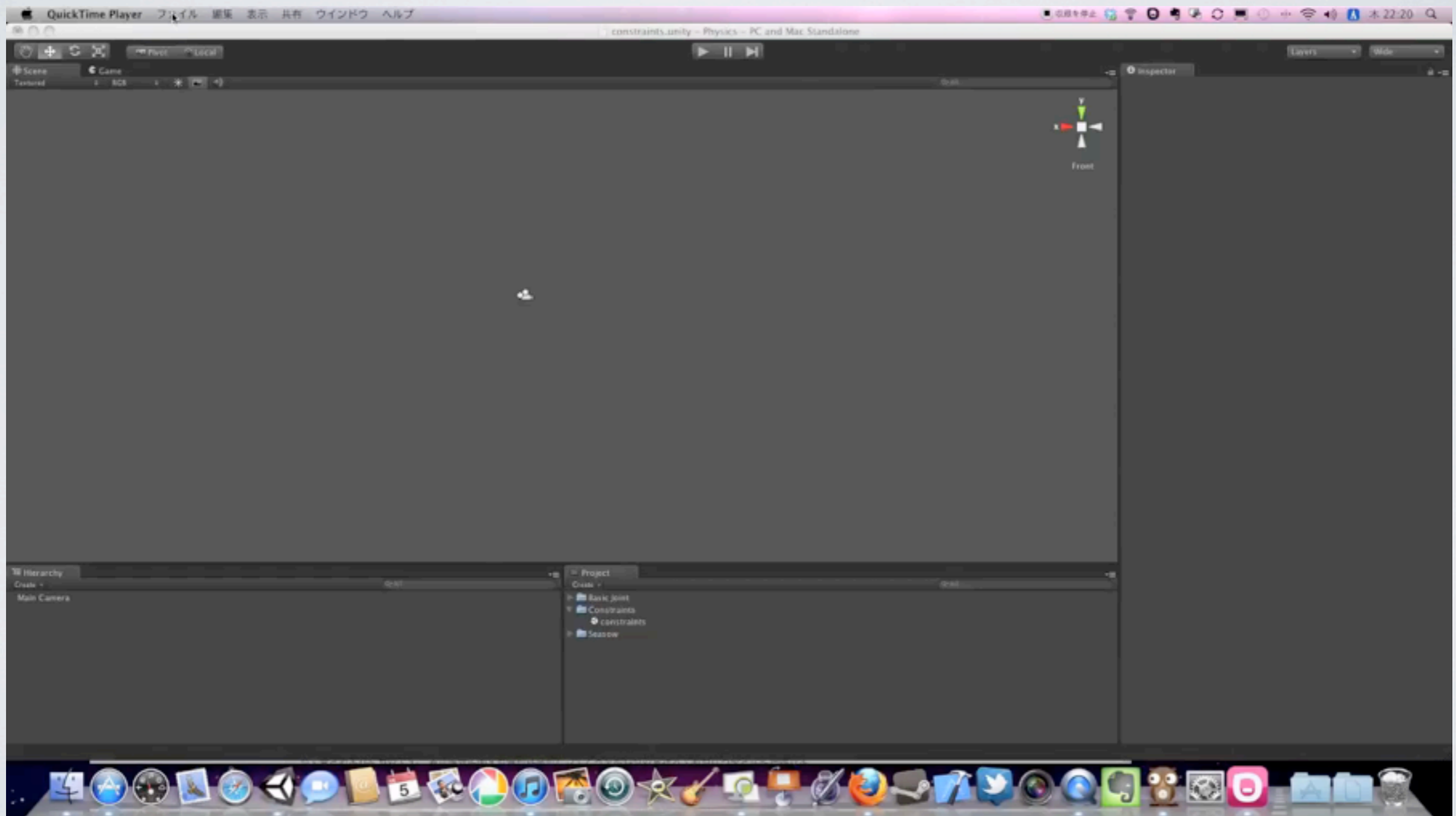
- コンストレイン (拘束)
- 物理エンジンによってはPhysXのJointと同義(Bulletなんかそう)の場合があるので注意

# UNITYのCONSTRAINTS

- UnityのConstraintは物理エンジンのシミュレーションの平行移動と回転の処理を軸単位で停止できる（正確にはPhysXのConstraintsの仕様）
- Rigidbodyのところで設定できる
  - Freeze Position...XYZの任意軸の平行移動を停止
  - Freeze Rotation...XYZの任意軸の回転を停止
- たとえば、Freeze PosionでZを指定すると奥行き方向のシミュレーションが働かなくなるので3Dモデルを使った2Dゲームみたいなのを作ったりするのに便利



# CONSTRAINTSデモ

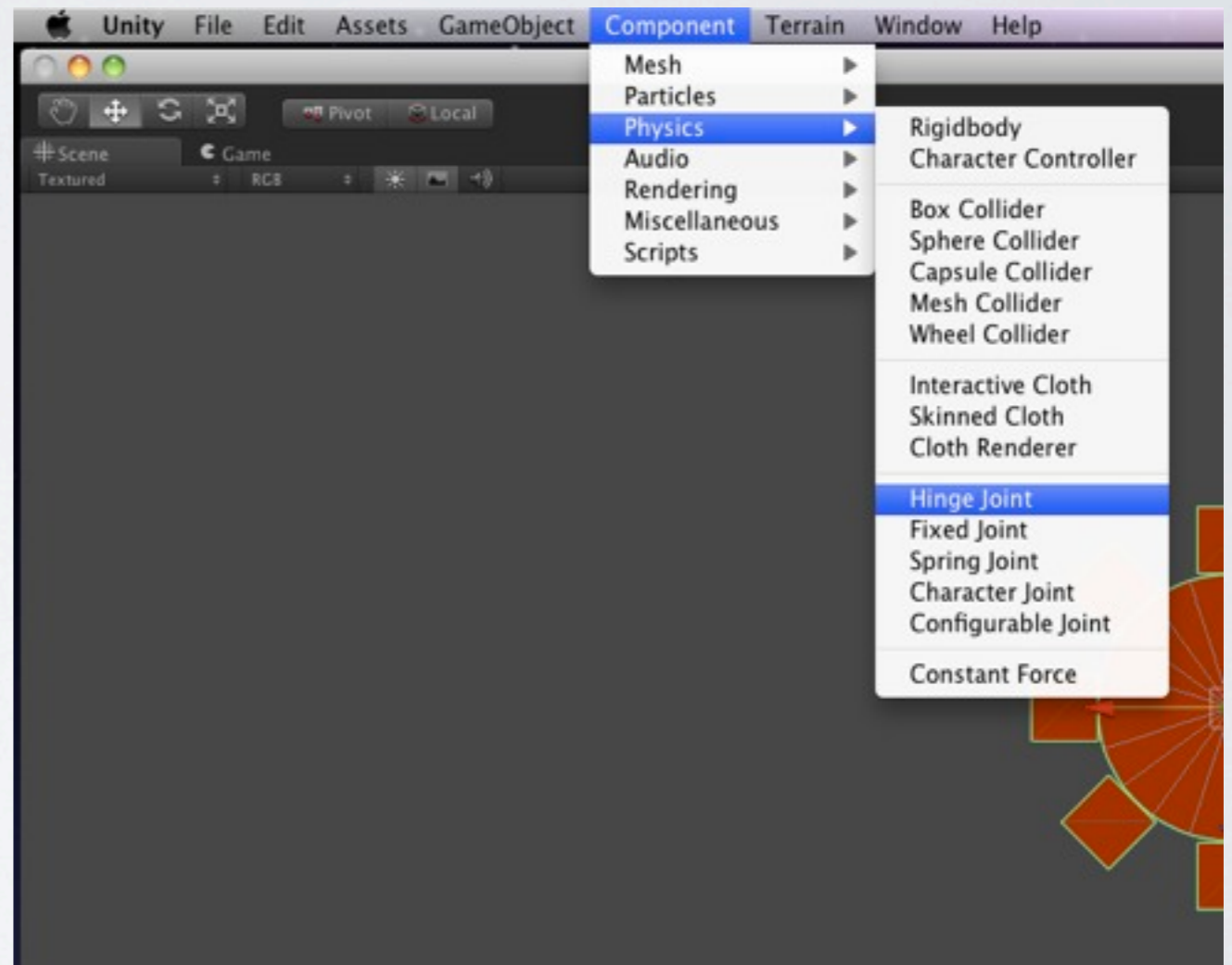


# JOINT

- 剛体同士をつなげます
- 物理エンジンで様々な仕掛けを作りたい場合には必須機能

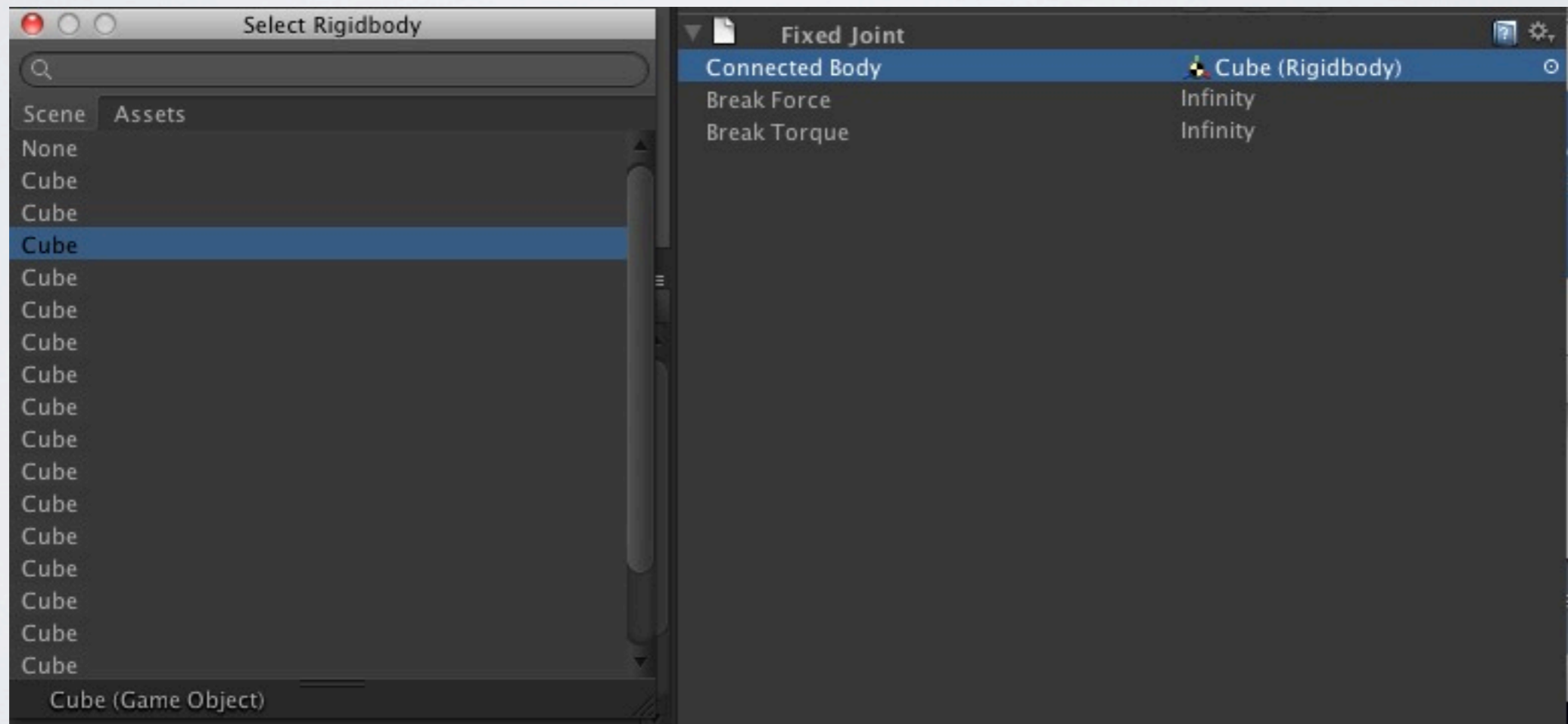
# JOINTの使い方

- メニューのComponentの下に「～Joint」という感じで5種類
- Rigidbodyのように選択したオブジェクトがjoint化
- jointを指定するとそのオブジェクトはRigidbody化



# JOINTの使い方

- Inspectorのjointの箇所でConnected Bodyで他のRigidbodyを選択すれば接続
- Connected Bodyがない場合は、その場に空中で固定かAnchorの場所で固定になる
  - Constraintsと似た感じと言えなくはない？

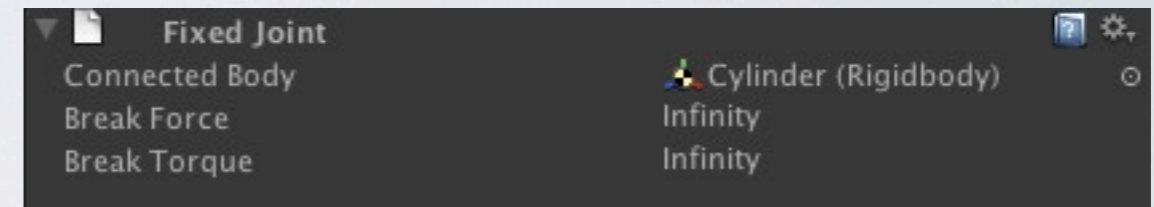




# UNITYで使えるJOINT

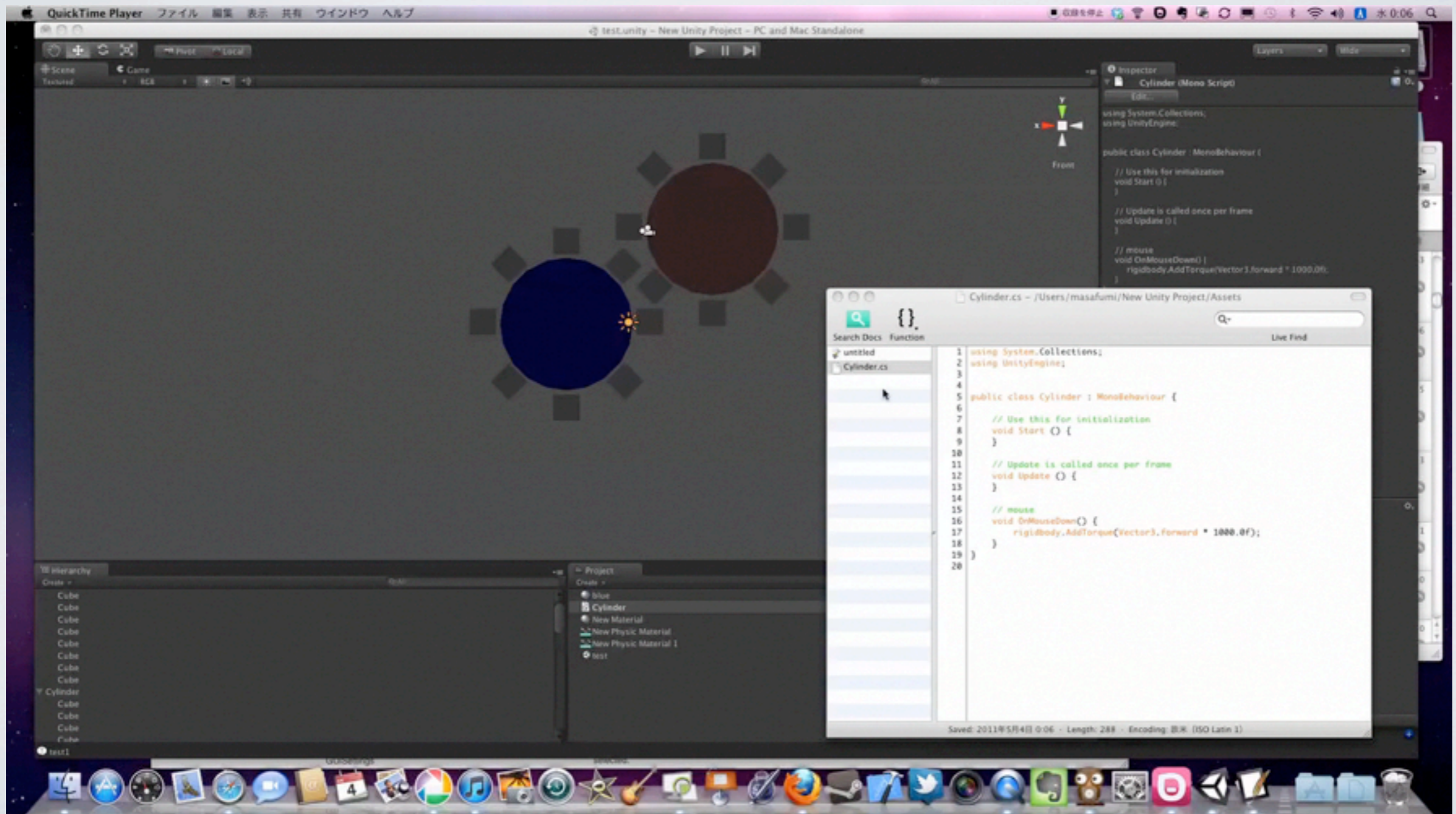
- Fixed(固定)
- Hinge(ヒンジ)
- Spring(スプリング)
- Character(キャラクター)
- Configuratable(コンフィギュラブル)

# FIXED



- 固定ジョイント
- ジョイント部分が動くことは無いけどあんまり制御もできないので実は動いちゃったりする...
- 項目
  - Connected Body...ジョイントで接続する相手
  - Break Force...指定した力が加わるとjointが壊れる(Infinityなら壊れない)
  - Break Torque...一定のトルクが加わると壊れる

# FIXEDデモ

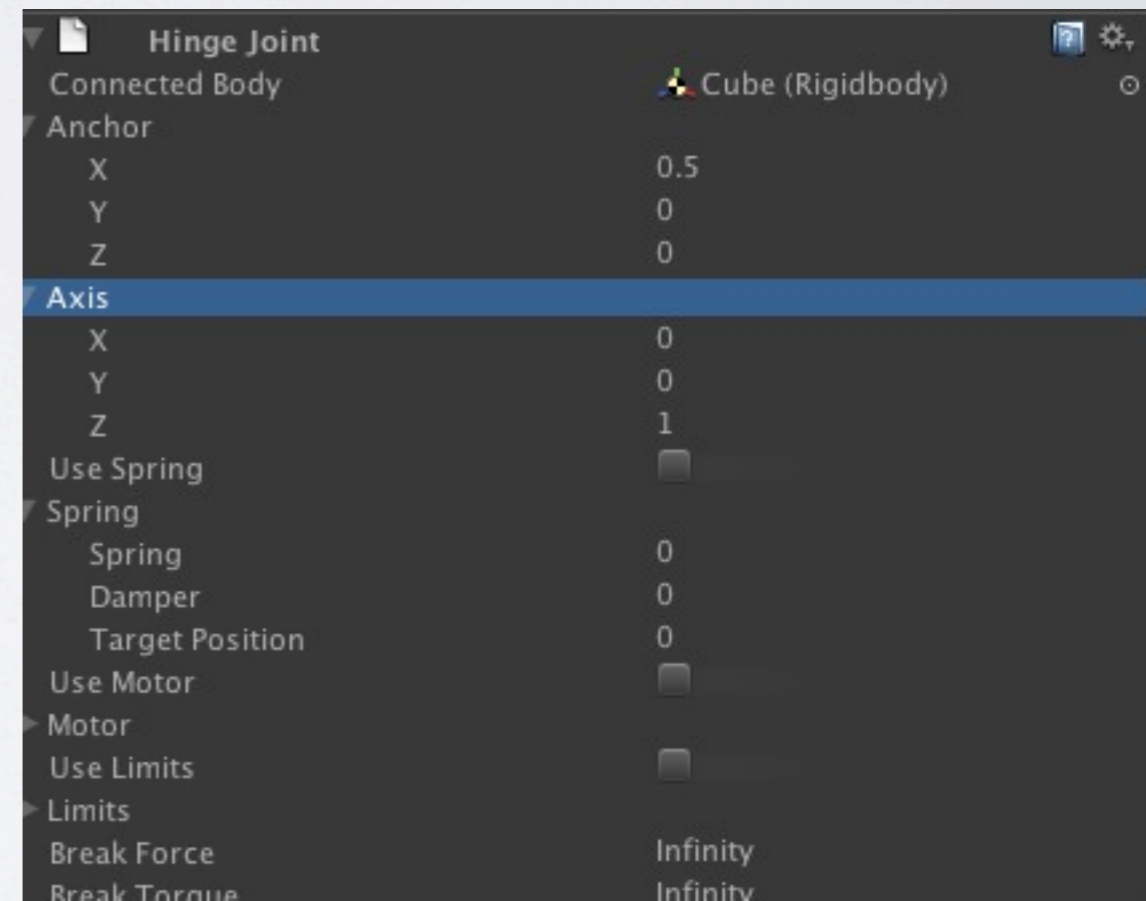


# HINGE

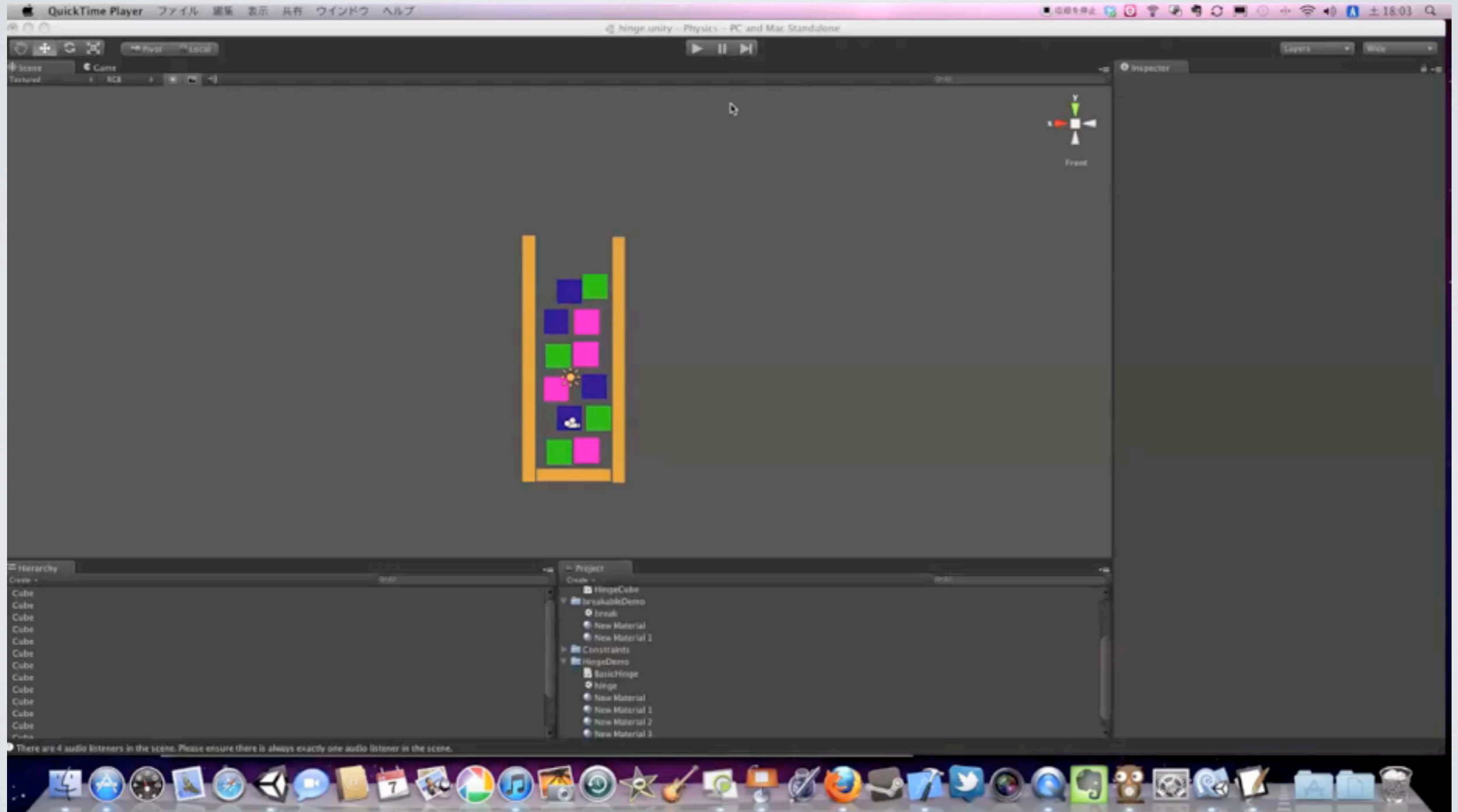
- ヒンジ
  - 蝶つがいの的な動作(ドアなど)
  - 回転軸をひとつ持つ（複数ならConfigurableを使う）
- モーター

# HINGEの調整項目

- Anchor(アンカー)
  - Jointの基点位置。オブジェクト相対で指定
- Axis
  - ヒンジの回転軸
- Spring
  - jointにバネ的な動きをさせる場合
- Motor
  - 軸自体が回転する。

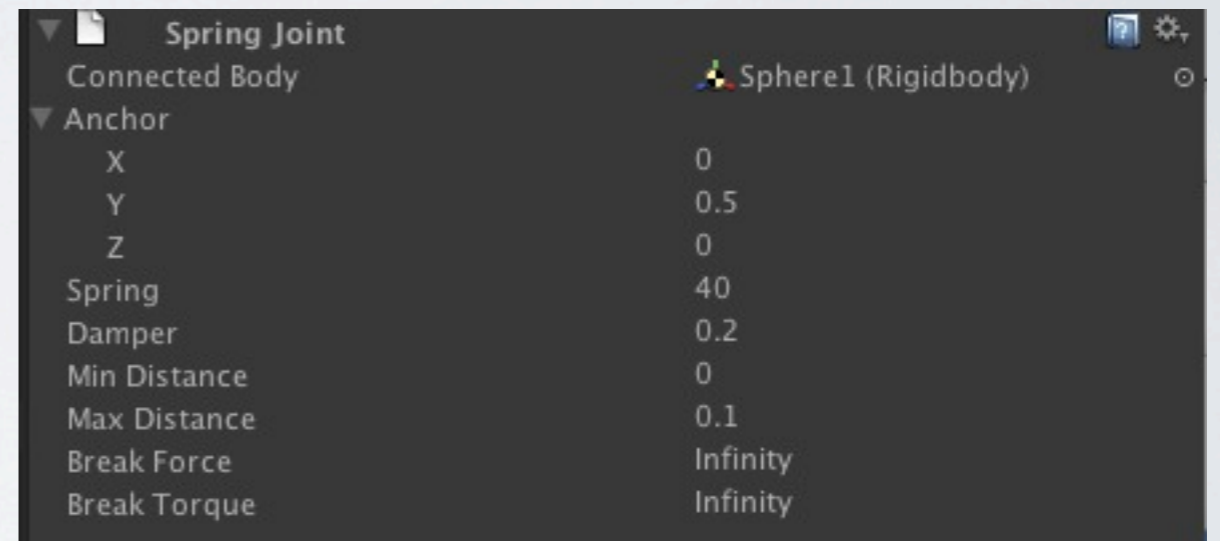


# HINGEデモ



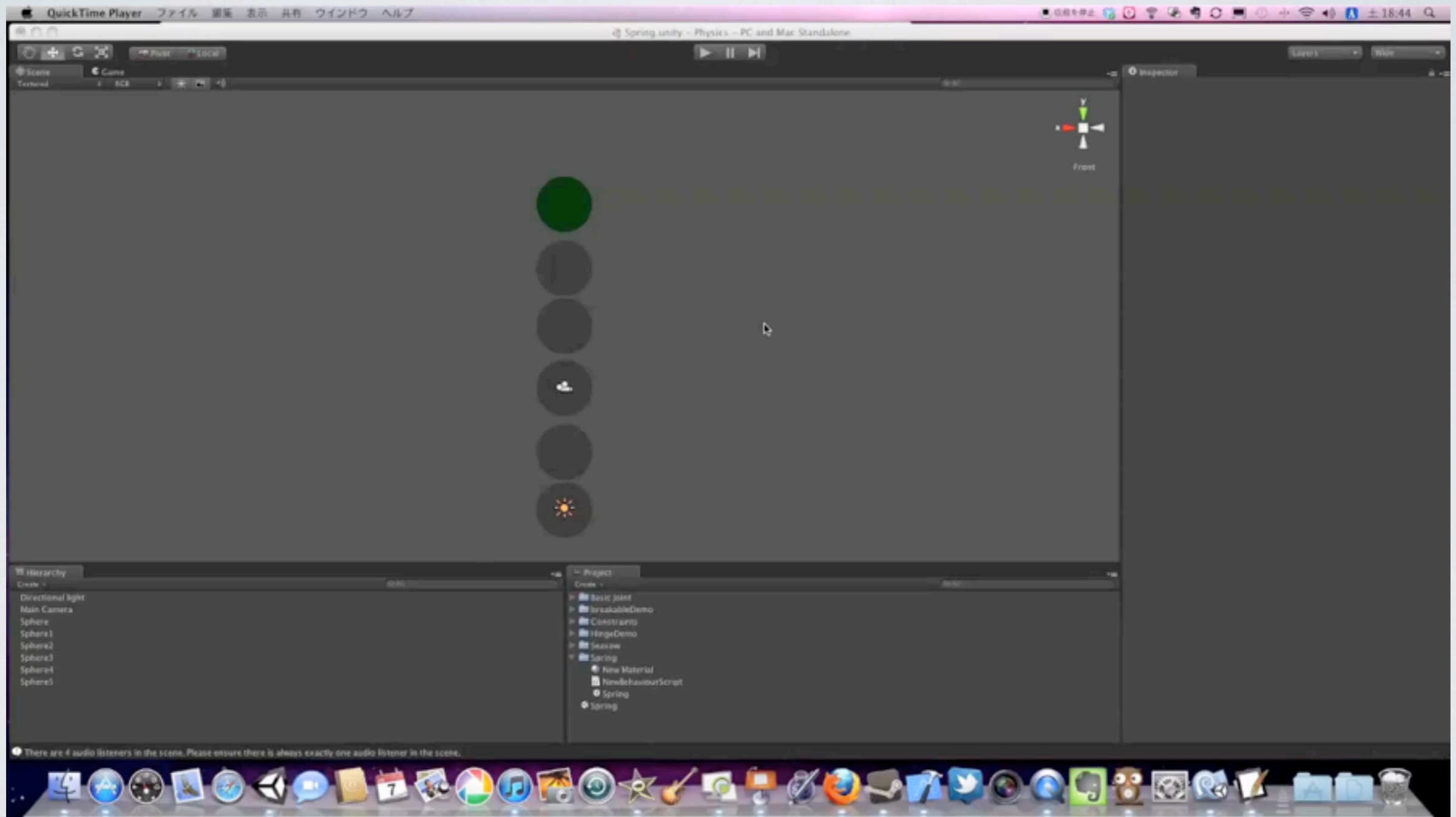
# SPRING

- バネ
  - Anchor...Hingeの時と同じ
  - Spring...バネの係数
  - Damper...ダンパー係数
  - Min Distance...Joint間の最小距離
  - Max Distance...Joint間の最大距離



Spring Joint	
Connected Body	Sphere1 (Rigidbody)
Anchor	
X	0
Y	0.5
Z	0
Spring	40
Damper	0.2
Min Distance	0
Max Distance	0.1
Break Force	Infinity
Break Torque	Infinity

# SPRINGデモ

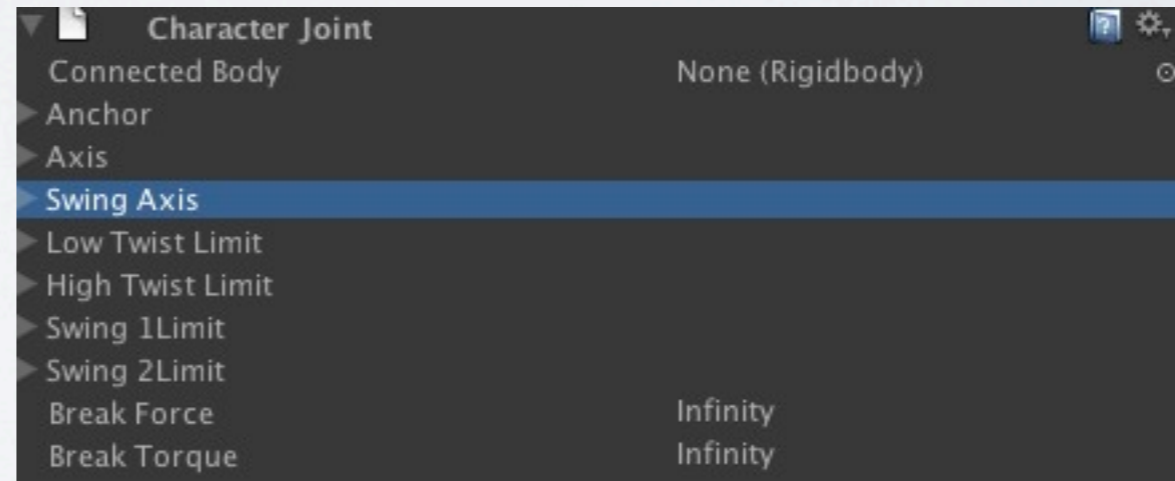




# CHARACTER

- キャラクターコントローラー指定したものを対象にしたJoint

- 今回は割愛



# CONFIGURATABLE

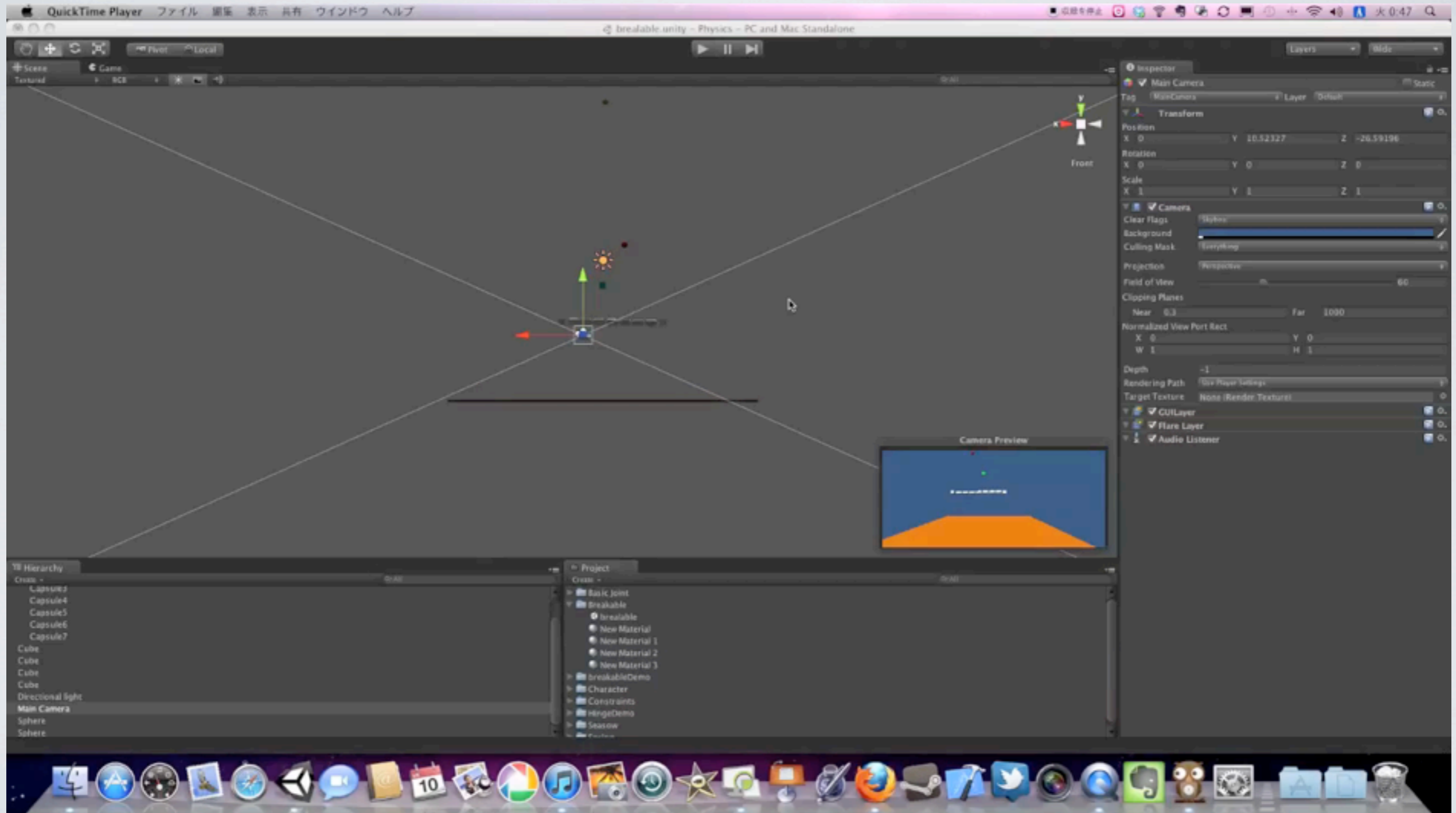
- とにかく設定項目が多くてカスタマイズができる
- 軸ごとの拘束とか様々なことが出来る
- 今回は詳細割愛



# BREAKABLE JOINT

- 破壊可能なjoint
- 物理的な力が加わるとjointの接合が壊れる
  - ForceとTorqueそれぞれ設定できる
- 破壊のような表現に使える

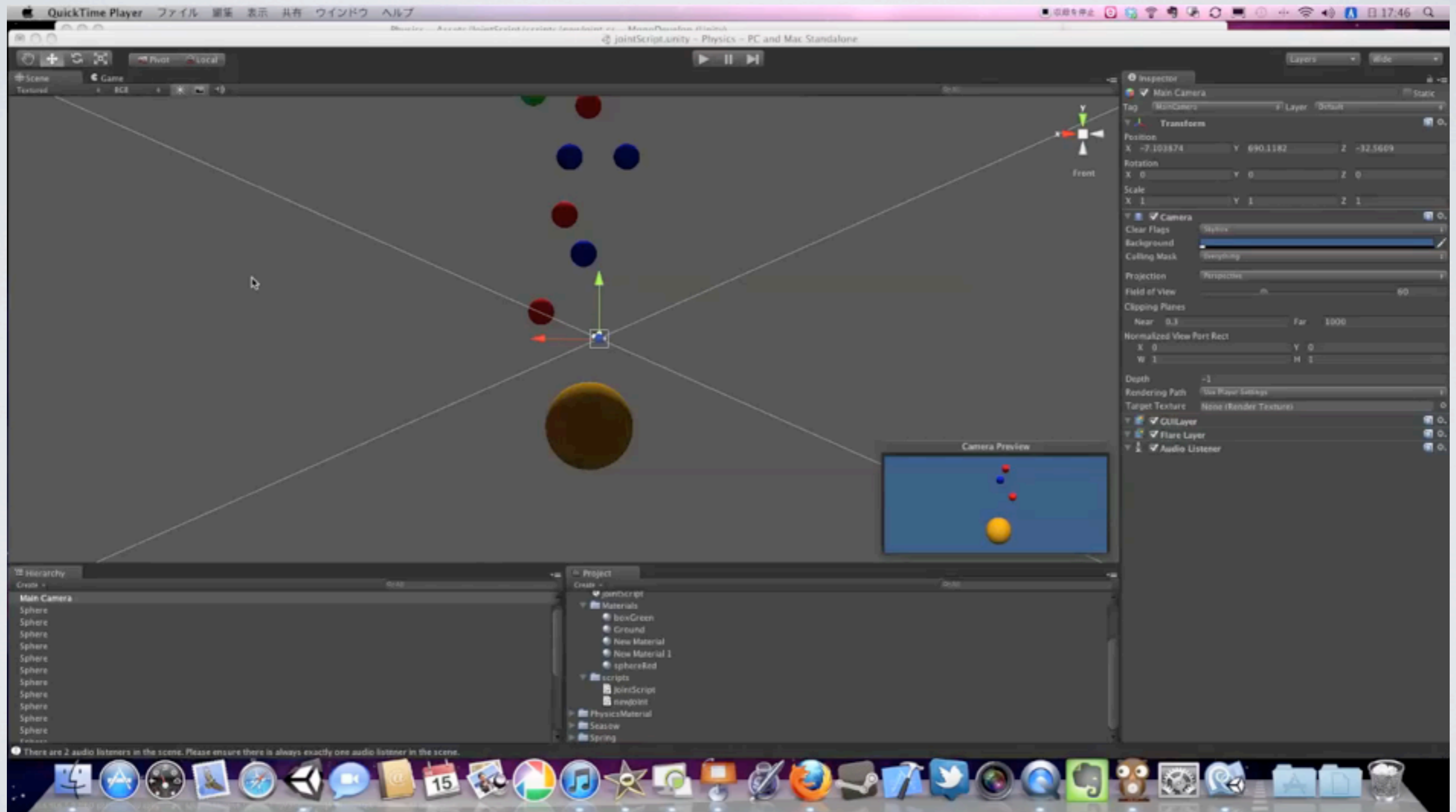
# BREAKABLE JOINTデモ



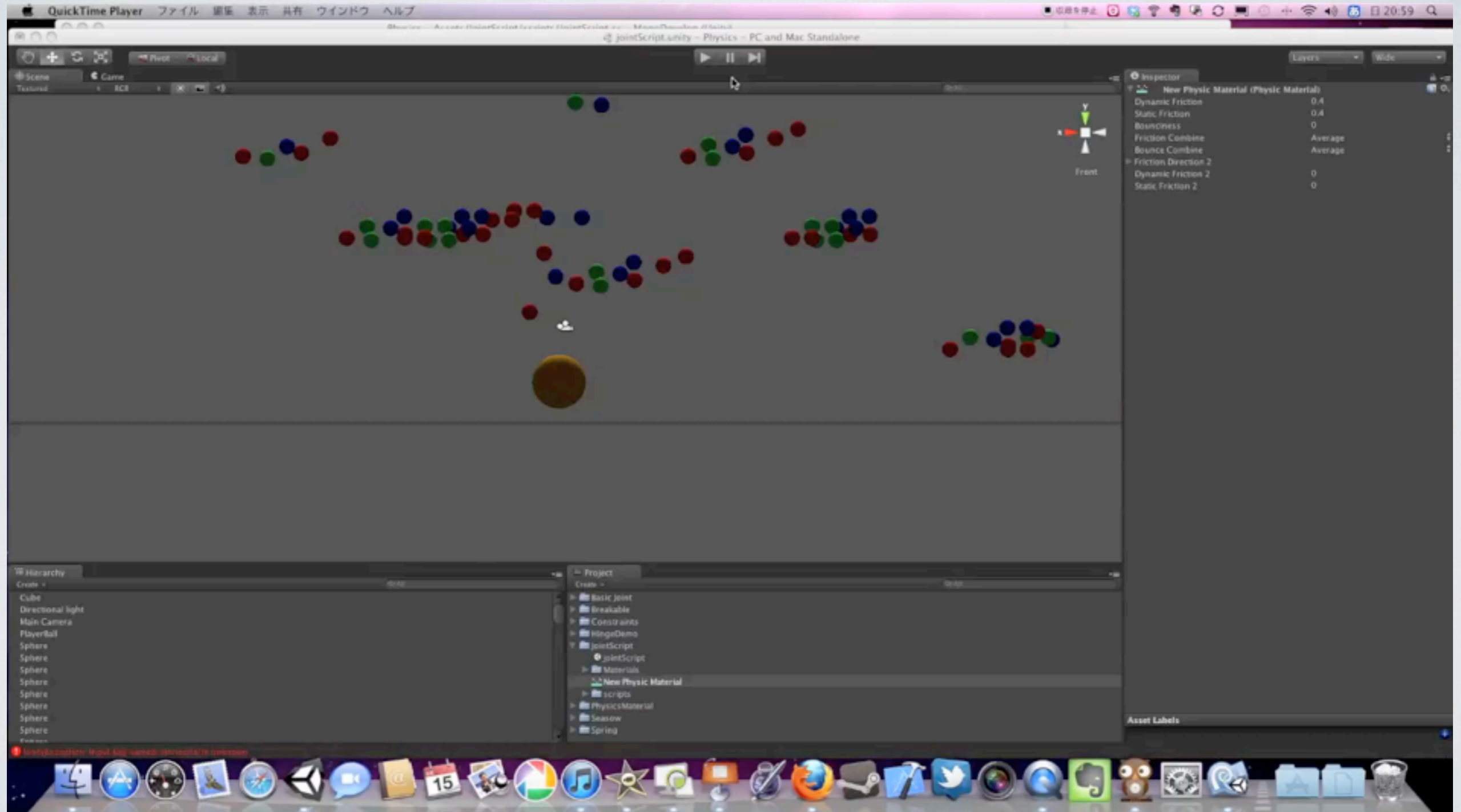
# スクリプトと物理エンジン

- 剛体は、Rigidbodyクラス
- Jointは、HingeJointクラス(なぜかHinge以外使えなかったの  
で要調査...)
  - スクリプトリファレンスだとあるけど、エラーになる
- スクリプトならゲームの処理の中で剛体やJoint生成ができる

# スクリプトでJOINTを生成してみたデモ



# おまけ



# 剛体に新規にJOINTを追加してみるには？

- Jointの無い剛体にJointを追加する
- JointはGame ObjectのComponentなので以下のコードで追加できる
- Hingeの例

```
gameObject.AddComponent("HingeJoint");
```



スクリプトでJOINT対象を追加したり、変更したりする

- Jointにあらたなターゲットを指定するには？
- Joint系クラスのメンバのconnectedBodyに相手のRigidBodyをセット

```
rigidbody.hingeJoint.connectedBody = other.rigidbody;
```

# 衝突があったらJOINT生成と接続例

```
void OnCollisionEnter(Collision other)
{
    if(!rigidbody.hingeJoint)
    {
        gameObject.AddComponent("HingeJoint");

        rigidbody.hingeJoint.connectedBody = other.rigidbody;
        rigidbody.hingeJoint.axis = Vector3.zero;
        rigidbody.hingeJoint.anchor = Vector3.zero;
    }
}
```

# まとめ

- jointを使うことでRigidbodyをまとめることができる
- jointを上手に組み合わせるとメカニカルな仕掛けが簡単に作れる

# 検証が必要と思われること

- Unityの物理エンジンのパフォーマンス
  - Unity側からのオーバーヘッドは？
  - 今回は、BoxやSphereの衝突形状ばかりだったがMeshを多用したらどうなるか？
- より複雑なゲーム用のアセット向けの複合的な衝突形状はどう扱う？

# 質問&議論

- 答えられれば...